

宗像市市民参画等推進審議会議事録（要点筆記）

日 時	令和4年5月25日（水）8：50～
場 所	宗像市役所 第2委員会室
委 員	■ 新井佳代子 ■ 鎌田隆徳 ■ 木村健次 ■ 佐藤靖成 ■ 鈴木邦治 ■ 種田明美 ■ 東博子 ■ 福岡佐知子 ■ 山森直哉 ■ 吉村義廣 （五十音順、敬称略）
事務局	コミュニティ協働推進課政策係（花田課長、杉山係長、成瀬、西山、佐藤） 元気な島づくり課元気な島づくり係（上村係長、宮本）

1. 審査会（8：50～15：20）

審査会のスケジュール及び審査方法について事務局から配布資料に基づき説明。
各申請団体から申請内容に関する説明を実施後、審議会委員から質疑応答。

○人づくりでまちづくり事業補助金

①「はたらくおとな研究室」実行委員会「はたらくおとな研究室」

市関連部署；子ども育成課、都市再生課

《質疑等》

- （質疑） 職場バックヤードツアーとして高齢者施設を訪問するとあるが、こういったことをするのか。
- （団体から応答） 高齢者福祉施設内では様々な仕事があり、施設内で働く人の様子を見せてもらうことを考えている。
- （質疑） 地域の大人との交流会を予定しているが、こういったことをするのか。
- （団体から応答） 本事業の活動場所の特性上、普段から大人と触れ合う機会はあるが、ゆっくり接することがあまりないので、大人と交流できる座談会のようなものを想定している。
- （質疑） 大人との交流会は小学生、中学生のどちらが対象となるのか。
- （団体から応答） どちらも対象としている。本事業の活動は小学4、5年生の子どもが一番利用しているが、1年間活動したことで子どもたちに活動内容が広がっており、中学生も参加している。
- （質疑） 自己負担金の目途は立っているのか。昨年度の活動を通じて子どもたちがどのように成長したか。
- （団体から応答） 団体の負担については、元々主催していたグランジュールが可能な限り負担し、それ以上のお金がかかる場合は、会員などから寄付を募りたいと考えている。今の小学校2年生は、新型コロナウイルス感染症の影響で他

者と触れ合うことが少なく、「あいさつをする」、「ごみを捨てない」など基本的なマナーを知らないことがある。本事業の活動を通じて、そういった基本的マナーを学べていると感じている。

②特定非営利活動法人メイクハッピー&ピース「フリースペース×みんな食堂」

市関連部署；子ども育成課

《質疑等》

(質疑) 本事業は団体として計画しているものなのか。

(団体から応答) 団体として予定している計画である。来月の総会で承認をもって、活動として決定される。

(質疑) 団体が実施している営利事業はあるのか。

(団体から応答) NPO 法人として活動しており、非営利の活動となる。

(質疑) 会費収入を本事業に投入することはあるのか。

(団体から応答) 団体として、会費収入はそこまで多くなく、事業の自己負担金は、寄付やクラウドファンディングで賄うことを予定している。

(質疑) 次年度以降活動回数を増加させていくとあるが、スタッフの確保はどうするのか。

(団体から応答) 今年度は活動を月に1回実施しているが、この回数を増やしたいと考えている。スタッフは福岡教育大学の学生等に呼びかけ、スタッフや食材の確保に努めたい。

③宗像歴史観光ボランティアの会「宗像の世界遺産・宗像の観光を楽しく広める」

市関連部署；世界遺産課

《質疑等》

(質疑) 11月に大島交流館等で活動を予定しているが、渡船代、駐車場代が計上されていないがそれはなぜなのか。

(団体から応答) 大人一人あたり500円の参加費をもらう予定で、その中から渡船代や駐車場代等に割り当てる予定である。当日はガイド3名が随行し、2名分の費用弁償については、本補助金を割り当てる予定である。昨年度は資金難のため満足に活動できなかったが、今年度は希望者がいる限り、人数が少なくても実行したいと考えている。市民の方に宗像の良さを再認識してもらいたい。

(質疑) 本事業が世界遺産を活用した周遊促進事業としているが、周遊をどのようにとらえているのか。市内に周遊できるスポットを設置するのか、同じ人が異なる場所にいくことなのか。

(団体から応答) 各地域に周遊できるスポットを設置していくことを考えている。活動

に参加された方には他の場所もおすすめし、周遊につなげたいと考えている。

④パトラン宗像「防犯活動中の救急救命と認知症の講習の開催」

市関連部署；危機管理課、高齢者支援課

《質疑等》

(質疑) 団体の人数はどうなっているのか。

(団体から応答) 団体の人数は40名である。

(質疑) 見守りをしているときに異常を見つけた場合、その情報の連携はどのようになっているのか。

(団体から応答) 異常があった場合は、学校や市役所に情報提供をしている。

(質疑) これまで救急車を呼ぶような場面はどれくらいあったのか。

(団体から応答) これまで救急車を呼ぶような場面は1回、認知症の方に遭遇した場面は1回あった。

(質疑) 予定では講習会は年に2回とあるが、これから回数を増やしていくのか。

(団体から応答) 団体のメンバーは仕事もしているため、確実に実行することができる回数に設定し、内容も絞っている。

(意見) 講習会の内容は、認知症としているが、熱中症に遭遇する可能性が高いのではないかと思っている。経口補水液を持ちながら活動する、熱中症の研修をしてもらえれば、さらに見守りの質があがるのではないか。

⑤ママボラむなかた「子育て情報誌づくり事業」

市関連部署；子ども育成課、子ども家庭課

《質疑等》

(質疑) 予算にある自己資金の負担はどうするのか。

(団体から応答) 寄付や広告収入を自己資金にしたいと思っている。ただ、広告の掲載については、市の基準に照らし合わせ、どこまで掲載できるかを市と協議したい。これまでサロンやワークショップを3回実施し、2万5千円程度の寄付をいただいている。

(質疑) 来年度は補助金の種類が変更となり、自己資金の金額が増加するが大丈夫か。

(団体から応答) 他の市町の団体も広告収入をも使用して活動していると聞いており、団体の認知度をあげ、広告収入を増加させ、不足分を補いたいと考えている。

(質疑) 会員の中で情報誌に関わっている人は何人いるのか。

(団体から応答) 団体のメンバーは26名おり、そのうち6名が編集に関わる予定である。今後、記事を作成する人を増加させたいと考えている。

(質疑) 講師を予定している人に情報誌づくりの経験はあるのか。

(団体から応答) 市内でフリーペーパーを作製している方をお願いしたいと考えている。団体のメンバーは編集の経験が浅いので、講師から雑誌の作成方法等を教え

てもらおう予定である。

(質疑) 市が発信している情報との違いは何か。

(団体から応答) 市からの発信している情報は、生の声の情報が少ない状況であり、体験レポートなど生の声の情報も発信していきたい。

(意見) 市が発信する情報と団体が発信する情報の住み分けをする必要があるのではないか。

(団体から応答) 発信内容の住み分けについてはこれから市と協議していく。体験レポートとして書いていきたいと思っており、当事者だからできる情報の提供をしていきたい。

(質疑) 会員を増やす活動をしているのか。

(団体から応答) 常に募集し、ゆっくりではあるが増加しており、会員の友達や SNS、ポスター等を利用して募集している。

(質疑) 子育ての情報には、専門的な内容もあり、記事に誤りがないかチェックをしてもらえるのか。

(団体から応答) 監修をしてもらおう予定は今のところない。基本的に自分たちで体験した内容を情報として提供していく予定である。

**⑥ココライイベント企画室「音を自分で作ろう！ - ミュージック Fun! Fun! -」
市関連部署；子ども育成課、都市再生課**

《質疑等》

(質疑) この事業の対象は誰になるのか。

(団体から応答) 小学生を対象としており、2年目は障がい者施設に訪問することも検討している。

(質疑) 講師はどういった方なのか。電動ドリルは子どもにも使用させるのか。

(団体から応答) 電動ドリルは子どもではなく、大人が使用する予定である。カホンは箱型のパーカッションであり、それに使用する板に穴をあけるために電動ドリルを使用する。講師は音楽に精通しているドラムとクラリネットの外部講師を予定している

**⑦ハンドメイド夢 na 形「夢 na 形 (むなかた)「手づくり」コミュニケーション」
市関連部署；子ども育成課**

《質疑等》

(質疑) 団体の負担金は会員が納める会費になるのか。

(団体から応答) 負担金は、団体に入会している作家さんが納める会費から出していく。ワークショップの参加者からは550円もらい、500円を材料費、50円を除菌シートなどの費用に充てる予定。

(質疑) アクリルスタンドやイベントスタンドはこれまで事業で使用していたものはないのか。

(団体から応答) ワークショップは新型コロナウイルスの影響で事業を中止にしていたが、今年度4月から行っており、まだ準備ができていない。

(質疑) 福祉施設に寄贈する腕カバーなどに制作に関わる人数は何人か。年間に6回寄贈する予定だが、施設先は決定しているのか。ワークショップの開催は月に何日なのか。

(団体から応答) 福祉施設の職員と納入物や数量を相談のうえ、制作にかかわる人数を決定していく。相談をしている施設は2施設であり、今後施設を増やしていきたいと考えている。ワークショップは、基本的に偶数月に2日間実施する予定ではあるが、場所の都合上、1日しか場所が借りられないこともある。

⑧しえるの会「障害児の家族のための居場所づくり事業」

市関連部署；福祉課、子ども支援課

《質疑等》

(質疑) 募集要項にある講師謝金の基準として4ランクに分かれており、最も高いので2万円となる。3万円を超えるものがなく、基準に照らし合わせて不足する場合、どうするのか。

(団体から応答) 謝礼金に基準があるのは承知している。講演には、お母さんや放課後デイサービスの相談員さんが受講に来られる予定で、講師から提示された謝金が3万円を超える金額となっている。ただ、講座の内容がよく、先生がお母さんなどをサポートしてもらえる。

(意見) 人まち補助金としては上限金額が定めてあり、その金額で考えてもらいたい。

(団体から応答) 上限金額が上回り、補助金で賄えない部分が発生した場合は、団体の資金で補うことを考えている。NPO 法人を立ち上げており、団体の収益で補えるようにしていきたい。

(質疑) いつもこの金額で講師に講演を依頼しているのか。

(団体から応答) 前回依頼した講師は、これより低い金額で引き受けていただいている。

(質疑) 講師の単価の基準を提示可能か。

(団体から応答) 講師から講座時にかかる料金の基準は資料で提出している。今回は、お母さんのみだけでなく、放課後デイサービスの相談員等が参加する場合の料金となっている。

(意見) 発達障害の子どもを持つお母さんのみではなく、相談員もはいつているので、講師から提示されている料金も高額になっているのではないかと感じる。もし今後も続けていく場合は、回数について検討する必要があるのではないかと感じる。

(質疑) 会場使用料を計上しているが、減免対象団体として会場使用料を減免されているのではないかと感じる。

(団体から応答) NPO 法人に変更するため、減免の区分が変更になる可能性があったため、会場使用料を計上している。このまま減免団体であれば、返還することで対応したいと考えている。

⑨「てくてくさくらねこ」の会「てくてくさくらねこ活動」

市関連部署；環境課、維持管理課

〈質疑等〉

(質疑) 自己負担金はどう工面するのか。

(団体から応答) 寄付金やバザーの売り上げなどで工面していきたい。

(質疑) 地域講演会の講師はどのような方をお願いする予定なのか。

(団体から応答) 九州女子大学でふくねこの会の活動していた方をお願いを予定している。

(事務局) 遊歩道は県が整備、宗像市が管理し、地元で活用されているものかと思うが、花壇や小屋など長期間設置するものは地元の許可だけでなく、行政の許可も必要になるかと思うが、協議はできているのか。

(団体から応答) 山田川を挟んで向かいの民地に設置する予定である。

⑩あかちゃんの育つ環境を守る会・ゆるりんこ「子育て支援」

市関連部署；子ども育成課

〈質疑等〉

特になし

⑪母と子のサロン つむぎ「母と子のサロン つむぎ」

市関連部署；子ども育成課、子ども家庭課

〈質疑等〉

特になし

⑫CLICK「地域でのプログラミング教室開催とPCの活用」

市関連部署；子ども育成課、教育政策課

〈質疑等〉

(質疑) 学校に出向いて事業を実施するのか。

(団体から応答) 以前は、学校にアプローチしたが、反応が返ってこなかった。

(質疑) 来年度以降の活動はどのようにしていくのか。

(団体から応答) SDGs やルックルック講座などに取り組みたいと考えており、ネット等を活用した事業が島での活動にあっていると感じており、可能なら地島や大島で、島づくりでの活動をやってみたいと考えている。

(意見) 過去に学校にアプローチされていたとあるが、面識がない人だと現場で対応することが難しい場合がある。学校と話す場合は、教育委員会を経由するなど工夫し、丁寧にアプローチすることが必要ではないか。

⑬宗像ビブリオバトル倶楽部「ビブリオバトルを通じた読書活動推進事業」

市関連部署；図書課

〈質疑等〉

(質疑) 学校司書と意見交換などを行う機会はあったか。

(団体から応答) 昨年に学校司書の研修に参加し、その中で学校司書の方と親睦を深められている。その中で活動や原稿の依頼を受けたり、中学生のビブリオバトルの参加者の推薦を受けたりした。今年の2月には、中学生の読書サポーターの研修会に声がかかり、生徒たちと直接お話しをする機会をいただけるなど学校司書さんとパイプを構築できていると認識している。

○元気な島づくり事業補助金

あ 地島再発見し隊「地島の魅力再発見事業」

市関連部署；元気な島づくり課、コミュニティ協働推進課

《質疑等》

(質問) 今年は行動し、交流し、発信することが今年のテーマだと思うが、予算の中に発信方法の内容や謝金等がないが、HP や YouTube での発信は子どもたちが行うのか。または講師謝金を支払い、HP などの質を上げる予定はないのか。

(団体から応答) 発信に力を入れていきたいと思っているが、まずは子どもの活動を価値づけすること、そして発信できるまで質を高めることを考えている。そのためには人との交流、まずは地元でどんな方がいるのか、どういうことができるのか、ベース部分をしっかりしていきたい。発信の質の向上については、次年度に力をいれていきたい。

い 九州産業大学地域共創学部行平ゼミナール「大島・地島！魅力発信プロジェクト」

市関連部署；元気な島づくり課、産業政策室

《質疑等》

(質問) 大島・地島の地元の方々にこの事業を説明しているのか。

(団体から応答) 地島には地元で説明会を開催し、実施したい内容を説明している。また総務省から派遣されている経営改善のアドバイザーとして、宗像市の離島航路に関わっており、その関係で大島・地島には4回程度訪ねている。その中で大学生目線のパンフレットを作製すれば交流人口の増加が見込めると考えており、内容が確定したら地元の方に説明し、地元合意の上で発行していきたい。

(質問) 団体の中にいる地元出身者から今回の事業に関して思いがあれば聞いてみたい。

(団体から応答) 大学生の若い目線を生かした活動を実施し、地元を活性化させたい。

(質問) パンフレットの効果的な配布先はどこを考えているのか。

(団体から応答) 神湊のターミナルに置くことを考えている。大島等に向かう人が手に取り、地島や大島に向かうように仕向けていきたい。また道の駅むなかたで

置くことで、大島・地島のことを知ってもらえると考えており、また市民の方にも大島・地島に行ってもらえるよう市内にも配布していきたい。

(質問) 地域おこしや活性化したいと思う人が見る島の様子と、全く関心がない人が見る島の様子ではちがうと思うので、それぞれ募集して一緒に事業をやっていくことを考えていないのか。

(団体から応答) 公金を使用する関係上、今年度は地島・大島の振興をしたいやる気のある学生を選抜している。来年度以降事業を継続する場合は、モニターツアーで学生などに来てもらうことなど検討していきたい。

(質問) 先進地の視察先は、どういったところが先進地なのか。

(団体から応答) 2019年に航路改善のために島として初めてイベントを実施し、200人ほどの誘客を図っている。そこでは島民が航路改善を図り、交流人口を増加させ、運航していた民間事業者が撤退し、大幅に減便している。交流人口を増加させなければならないと立ち返った場所であり、人口規模が同じで、航路時間もほぼ同じである点を考慮して選定した。

う 大島学園PTA「おおしまワクワクプロジェクト(5-1)」

市関連部署；元気な島づくり課、コミュニティ協働推進課

《質疑等》

(質問) 3年目以降の補助申請の内容がないが、今年度で終了するのか。

(団体から応答) 来年度以降も申請し、島を元気づける行事等に使用させていただきたいと考えている。

(質問) ダンスの専門家から指導を受けることで子どもたちにどのような影響があるのか。

(団体から応答) 学年ごとにダンス内容を変更してもらえるため、発達段階にあったダンスを学べる。ダンスを習得することで子どもに達成感が得られ、また様々な場所で披露することで、みんなから認められることから自尊感情が高まる事が期待できる。

(質問) 講師の渡航費については計上しなくてよいのか。

(団体から応答) 申請書に記載した予算内でやりくりしていきたいと考えている。

=散会=